HONDA
The Power of Dreams

2021年SJ 2・3月号

SJクイズ

[問題編]

Q1

2019年の自転車（第1・2当事者※1）の交通事故件数を相手当事者別にみると、最も多い相手は自動車ですが、その割合は何%でしょう？

①約60%　②約70%　③約80%

※1　第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。
第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

Q2

2019年の左折時の交通事故件数のうち、自転車側（第1・2当事者）に人的要因があったのは6,067件ありました。この中で最も多い人的要因は次のうちどれでしょう？

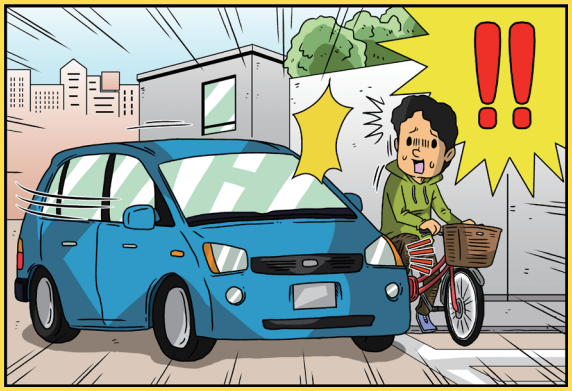
①動静不注視※2　②安全不確認　③前方不注意

※2　相手の存在を発見していたが、危険はないと判断し、その動静の注視を怠ったこと。

Q3

左折時の交通事故の人的要因における「動静不注視」のうち、自転車側が「相手が譲ってくれると思った」割合は何%でしょう？

①約40%　②約50%　③約60%



【使用上の注意】
●営利目的での利用はおやめください　●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください　●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部　TEL:03（5412）1736

ⓒ本田技研工業（株）

SAFETY-JAPAN

HONDA
The Power of Dreams

2021年 SJ 2・3月号

SJ クイズ ?

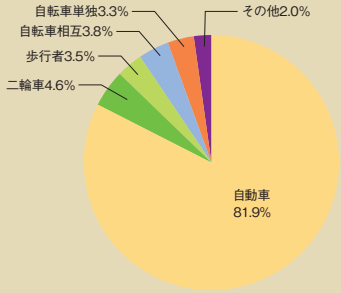
[解答・解説編]

Q1 解答 ③約80%

＜解説＞

2019年に自転車が第１当事者または第２当事者となった交通事故件数(自転車関連事故)は 8万473件。これを相手当事者別にみると、対自動車が81.9%と最も多くなっている。自転車関連事故で最も多い事故類型は出会い頭衝突である。ドライバーは、見通しの悪い交差点では自転車の急な飛び出しなどを予測して運転する必要がある。

●自転車（第１・第２当事者）の相手当事者別交通事故件数（2019年・構成率）



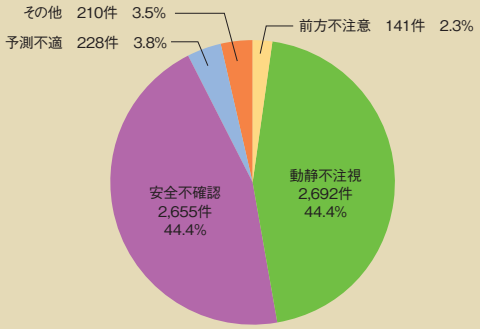
出典：警察庁資料

Q2 解答 ①動静不注視

＜解説＞

2019年の左折時の交通事故件数のうち、自転車側（第1･2当事者）に人的要因があったのは6,067 件。人的要因の内訳をみると、「動静不注視」が2,692件（44.4%）で最も多く、「動静不注視」とほぼ同じくらいで「安全不確認」の2,655件（44.4%）となっている。「動静不注視」と「安全不確認」が人的要因の９割近くを占めていることから、自転車は周囲をよく観て、クルマなど他の交通参加者の動きに注意を払うことが大切である。

●左折時の交通事故における自転車側（第１・2当事者）の人的要因（2019年）



※出典：（公財）交通事故総合分析センター資料

Q3 解答 ③約60%

＜解説＞

左折時の交通事故の自転車側（第 1・2当事者）の人的要因における「動静不注視」(2,692件）のうち、「相手が譲ってくれると思った」(1,662件）は61.7%となっている。「クルマのほうが止まってくれる」と判断する自転車が多いことを踏まえ、ドライバーは左折する前に、自分の周囲に自転車等がいないか十分に注意する必要がある。

また、自転車も「自分がドライバーに見落とされているかもしれない」と意識し、左折しようとするクルマがいる場合は先に行かせるほうが安全である。

【使用上の注意】
●営利目的での利用はおやめください　●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください　●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部　TEL:03（5412）1736

ⓒ本田技研工業（株）

SAFETY-JAPAN